

歪んだ日本人像を世界に伝え続けていた『毎日新聞』

読むに耐えない『日本の紹介』がネットで世界中に5年以上も流され続けていました。以下にほんの一例を挙げてみます。

- 日本人の母親は中学の息子が入学試験に合格するため、性的関係を結ぶ。
- ハンバーガーを食べる日本の女子高校生達は日本で一番の色情狂になった。
- 六本木の某レストランで日本人は食事の前に、調理される動物とワイセツ行為をする。
- 福岡のおしろい祭りでは白い液体を顔に塗り付けるので、日本のアダルトビデオ愛好家に大人気。

こんな卑猥な記事を、日本の風俗や習慣の一端であると、数年にわたり海外へ紹介していたのは成人用Hサイトではありません。毎日新聞社が誇る日本最大の英文サイト「Mainichi Daily News」です。毎日新聞社によればサイトの閲覧数は月間最大2000万ページビュー。そのようなサイトから歪んだ数多くの日本紹介記事が英文で発信され続けていたのです。とても信じられませんが紛れもない事実です。

毎日新聞の英文サイトの実態が日本国内に広く知れ渡り始めたのは2008年6月20日(金)夜、YAHOO!JAPAN ニュースに「毎日新聞英語版サイト『変態ニュース』を世界発信」という記事が掲載されてからです。大手報道機関では朝日新聞のサイト「asahi.com」6月24日10時21分付の報道を皮切りに、読売新聞、産経新聞、共同通信のサイトが同日中に下記のニュースを掲載しました。

【24日の主なネット報道】	朝日新聞	毎日新聞英文サイト英訳コーナー廃止「低俗」批判受け http://www.asahi.com/national/update/0624/TKY200806240055.html
	読売新聞	みだらな表現に抗議受け、毎日新聞が英文サイト一部閉鎖 http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20080624-OYT1T00418.htm
	産経新聞	毎日新聞が英文サイト閉鎖「低俗過ぎる」と批判300件 http://sankei.jp.msn.com/affairs/crime/080624/crm0806242004039-n1.htm 英語版サイトに「低俗」な日本紹介記事を掲載 毎日新聞がおわび http://sankei.jp.msn.com/economy/it/080624/its0806242018000-n1.htm
	共同通信	毎日が英文サイト一部閉鎖「低俗」と抗議3百件 http://www.47news.jp/CN/200806/CN2008062401000847.html

※肝心の記事が卑猥すぎ、具体的な内容がテレビで報道される可能性は低いですが、「週刊新潮7月3日号(6月26日発売)」で掲載され、一部を具体的に知ることができます。

【毎日新聞社の主な対応】 (6月25日夕方まで)

6月11日	問題を指摘されていた記事を削除	(← この事態が20日に初めてネット上でニュースとなる)
6月21日	紹介していたコーナーを丸ごと閉鎖	(← 事態を知った人が簡単に検証できなくなる)
6月23日午前	サイトのHTMLソースを書き換える	(← 一部、書き換え忘れたページがあるらしい)
	※検索用に「japanese girls」「geisha」「hentai」というキーワードを含めていたのを削除。つまりそれ以前は、Google等の検索サイトで、前述の単語を入力した人達を「Mainichi Daily News」に誘導する意図があった。簡単にいえば、「japanese girls」「geisha」「hentai」に興味がある人、サイトにいらっしやい!ということ。	
6月23日夕方	サイトに日本語で「お詫び」掲載	(← なぜ日本語だけが掲載されたのか、理由は不明)
6月24日未明	英文でほぼ同内容の「お詫び」も掲載	(← 英文サイトなのだから、これが真っ先にあるべき)
6月25日未明	サイトに日本語で新たな謝罪文を掲載	(← 先の謝罪文と、さほど大意は変わらず。簡略化)
6月25日朝	朝刊にサイトと同内容の謝罪文を掲載	(← 経緯を知らない人には意味不明。形式的な謝罪)
同日	サイト部門の上層部が役員人事で昇格	(← 監督責任を含め処分方針、という謝罪は何だったの?)

新聞で簡潔な謝罪をすませた後、一部の担当者を処分するだけかもしれませんが。現に同日、デジタルメディア局長の長谷川篤氏はデジタルメディア担当のまま取締役役に、常務取締役・デジタルメディア担当の朝比奈豊氏は毎日新聞社取締役社長に就任決定。

【謝罪の問題点と、今後対処すべき点】

1. 日本の週刊誌に掲載された記事を引用しただけ、という責任転嫁。

24日にサイトに掲載された「毎日デイリーニューズ『WaiWai』についてのご説明とおわび」(<http://mdn.mainichi.jp/culture/waiwai/etc/owabi.html>)では「数年前より、国内の週刊誌などの報道を引用し、日本の社会や風俗の一端を紹介」してきたとあります。毎日新聞社が引用した雑誌には「実話〇〇」「実話××」といった、いわゆる成人向けの実話系雑誌が少なからずあります。それらの卑猥な記事をあえて拾い上げて英文に意訳し、海外発信していたのです。

仮に、実話雑誌のサイトから海外発信したのであれば、胡散臭い記事だと思ふ外国の方も多いでしょ。しかし、そのニュースをわざわざ英文にして配信したのが、日本を代表する報道機関のひとつである大手新聞サイトだとしたら…。たとえばNewYork Timesがタブロイド紙の記事を引用して「アメリカの10代の若者はファーストフードを食べ過ぎ、色情狂が増えている」などと書いたとしたら? いえ、そんな報道機関は国を代表する組織ではあり得ないことでしょう。さらに、英文記事の執筆段階で、単なる引用ではなく恣意的に改悪している疑惑も浮上してきました。「〇〇〇(某雑誌名)によればパールハーバーと南京大虐殺の後継である政府省庁」とあたかも引用のように書かれてしまった当該雑誌の元記事には、一切そのような記述がなかった事が判明しました。客が獣姦した動物を食べるレストランのような記事を、どうして名だたる全国紙のサイトが英文で世界へ発信するのか。他誌から下劣な記事を選び続けた点にこそ問題があるのです、しかも長年。また、他誌の記事を改悪しながら、なぜ記事の引用などという詭弁を使うのか。報道機関としてのモラルが欠如しています。

2. 偏った日本紹介の記事を配信し続けた経緯を説明する責任がある。

同「おわび」の文章では、批判を受けたので記事を削除し、サイトを閉鎖、関係者を厳重に処分するとありますが、それで終わりでは済まされない問題です。(批判を受けなければ放置していた、とも解釈できます。)仮にも日本の四大新聞のひとつとしてジャーナリズムを担う毎日新聞社であれば、記事掲載までの厳重なチェック体制が敷かれているはずでしょう。にもかかわらず、なぜ5年以上にわたって一連の記事が世界へ配信され続けたのか。記事もさることながら、検索用キーワードに「japanese girls」「geisha」「hentai」を設定するのは大手企業サイトの場合、一個人で実行できるような行為ではないのです。組織としてのチェック機構がまったく働かなかったのか、それとも組織ぐるみで偏向記事を流し続けたのか。まだ一切の説明がなされないままです。毎日新聞社にはこれらの経緯を説明する責任があります。

3. サイト閉鎖と謝罪だけでは済まない、日本人の汚名返上をすべき。

最大の問題は、国内での謝罪ではとどまらない点です。長きにわたって、歪んだ日本人像を世界中にバラまき続けた悪影響は、考えるだけでも恐ろしいものがあります。歪んだ記事がネットで英語以外に翻訳、転載され、他国に浸透している可能性も否定できません。日本のイメージを歪曲させた償いとして、全世界に向けて、それこそ各国の大手報道機関がトップニュースで取り扱うぐらいの勢いで、「毎日新聞社は成人向け雑誌等の扇情的な内容を報道記事として見なし、あたかも日本の一般的な風俗であるかのように、5年以上も世界中へ紹介し続けてきました」と発信すべきです。世界中に知れ渡るまで、イメージ回復を図るよう努力を続け、告知し続けるべきです。これは日本人の恥ではなく、毎日新聞社の恥だったのだと。

度重なる食品偽装での、組織トップによる「部下の責任」発言や証拠の隠蔽。ミートホープは、船場吉兆は、どう責任を取る結果となりましたか? 問題のサイトをこの世から消し、謝罪し、担当者を処分しさえすれば解決だと毎日新聞社サイドは考えているのでしょうか?

事件の詳細は「毎日新聞の英語版サイトがひどすぎる まとめ@wiki」

<http://www9.atwiki.jp/mainichiwaiwai/>にてご覧いただけます。

どのような記事が配信されていたのか悲しくなるほどに分かります。記事の内容が低俗すぎ、TVで取り上げにくい事件ですが、少しでも多くの日本人に知っていただきたいと思い、チラシを作成しました。このような事態を招いた毎日新聞社が今後何をどうするつもりなのか、ご注目いただければ幸いです。

携帯からは、姉妹サイト「毎日新聞問題の情報集積 wiki」<http://www8.atwiki.jp/mainichi-matome/>へどうぞ。すぐ右上のQRコードからアクセスできます。

